

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101503
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター 岡山下中野
所在地	岡山県岡山市北区下中野323-107
自己評価作成日	令和 2年 2月 10日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101503-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が入居者様が安心して生活できるようなホームを目指されています。要介護1～5までと入居者様の介護度はそれぞれ違いますが、皆さん住み慣れた自宅を離れ、ホームでの生活となり不安や心配事を抱えておられます。ニチイケアセンター岡山下中野では、その人主体を重んじた総合的なケアをし、スタッフのチームケアを行うことにより、入居者様それぞれの状態に添った介護の実現を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

異業種から参入した介護職の方が数人いるので、様々な考え方や見る角度が違うことを上手に生かしている。例えば、避難に携わった人が、施設で避難しやすく使える様に意見をくれたり、介護職員が実践でできる程良いやり方に変えたりしている事や、調理に長けた職員が、新しい献立にチャレンジして、職員全員で楽しみながら参画しているところが素晴らしい。管理者が、職員の自由な考え方や意見を全て聴き、実践させてから全員で検討し、聞いてもらえるその姿勢がやる気に繋がるよう導き、職員が楽しく成果が上がるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是や理念は良く見えるところに提示し、申し送りや会議の時に唱和し、共有・実践に繋げている。	事務所とリビングに掲示し、ホーム会議・ユニット会議2回の3回、開催時に理念を全員で唱和し心に刻んでいる。新人研修は、入社直ぐに研修し、人間形成の礎は、1～2か月の間に行い、社是「誠意・誇り・情熱」をゆっくり丁寧に享受し、理念を細分化して月間目標として、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園へ天気の良い時には散歩に出る。銭太鼓・マジック・二胡の演奏・アコーディオンなどのボランティアを受け入れている。	町内会長が地主で大家を兼ねていて理解があり、目の前の公園では、花見ができ公園をのびのびと使わせてくれる。日常は、地域の人や小学生が買い物や散歩の時に、声をかけてくれたり、犬の散歩している方が犬を抱かせてくれたりする。	せつかくの近所とのご縁を、もっと深めてはいかがですか？グループホームの知名度を上げる施策や職員の介護や認知に対する講話を地域で行っては如何ですか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページで活動を随時お知らせしている。また、運営推進会議の案内時に地域へ行事やボランティアの発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見や要望を聞いている。また意見箱を設置している。	今まで来防がなかった包括に手紙・電話などで案内し包括の新人を連れて来てくれるようになった。現状・活動・事故報告での意見交換も講話が生まれ、看取り期のケアや家族の不安に対しても、泊まり込んで職員と一緒に提案し家族に安心して頂いている。	運営推進会議に地域の身近な方を招いて、新しい地域の情報を取り込み、実践しては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしたり、内容の報告・ほほえみ便りの発送など、情報提供をしている。	窓口は、管理者と事務員で、市の方とは、何でも気軽に相談や会話が出来る関係が築けている。感染症予防のチラシや広告を市から頂き家族まで配ることもしている。介護保険の更新時は、管理者が各福祉事務所へ出向き、連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に組み入れて、身体拘束をしないケアを心掛けている。現在、該当者はいませんが身体拘束適正委員会を設け、3カ月に1度話し合いをし、必要な状況が発生した場合は家族の同意を書面で行うようにする。	年間研修とは別に、毎月3人の利用者に向けた拘束のケースカンファレンスを行っている。ベッド柵で困わないことや車いす上での安全安楽な姿勢の保持などを含めて、利用者の重度化が進んでいるので、移動時には、常に付き添い、優しい言葉がけや態度で接する実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、研修会を行い防止に努めている。更衣や入浴の際には、入居者様の変化をチェックし虐待を見過ごさないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時には個別説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、家族会や運営推進会議などで意見や要望を聞いたり、意見箱の設置も行っている。	家族が他の利用者の変化から本人との比較となるので、家族にも認知症の学習をして頂く機会を設けている。顔つきや首振り、表情やしぐさで察知し快不快かを感じ取っている。家族の来訪の頻度も多く、施設内でのお茶を出して、要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り・月に1回のホーム会議・月2度のユニット会議を開催し、情報や意見交換をしている。	職員が、想いを言い合える関係ができている。意見や提案、職場の悩みや苦勞を個別に聴き取り、全体会議で世間話の様にゆったりとした雰囲気の中でチャレンジ精神を育んでいる。全体・女子会・男子会も積極的に職員が企画し、関係を分かち合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月拠点内での研修をはじめ、会社内でミーティング・テクニカル研修などに参加したり、講座の割引制度も設けている。働きながら資格が取得できるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山に5拠点あるグループホームとの交流は、毎月管理者・ケアマネと分かれて行われ、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問時に情報収集を行うと同時に、ご本人の希望を伺い、安心して介護を受けられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にホーム見学をしてもらい、説明・納得して頂いている。事前訪問に際しても家族からの要望などを聞いている。入居申し込み書にも希望や要望の記入欄を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の生活状態やADLなどの情報収集を行い、カンファレンスを行いケアプランを作成している。2ヶ月程度を目安にプランを見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気と共に過ごすことを前提に、家事・炊事を一緒に行うようにしている。その過程で、昔の知恵を学ばせて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の状況をお伝えしている。状態の変化があった時は、その都度報告をし、提携医以外の病院・医院に関しては付き添ってもらっている。面会・外出・外泊などご本人との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のみならず、友人・知人の面会や手紙・葉書などを通して交流を図っている。	前ケアマネのお孫さんやひ孫やもとの家のご近所さんがしばしば来訪する。面会者は他の利用者とも仲良しになって、来訪毎に新しい馴染みの人となっている。パン屋・移動パン屋・近所の家の花壇・公園・庭の水やりや芋ほりが、新しい馴染みの場所となる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格・ご入居者同士の関係などを把握し、席を配慮している。孤立しないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共同生活が馴染めず退去したご利用者には、他のサービス情報を提供した。また、入院中のご利用者のお見舞いへ行き、経過を伺い今後の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との関わりの中で一人一人の希望・意向の把握に努めている。またセンター方式を使用し、カンファレンスなどの情報を共有し、ご本人の立場に立って検討している。	家事をしている時のさりげない会話から意向を汲み取っている。1対1になる入浴や排せつ・夜勤帯では、絶好の聴き取り場面で、膝を合わせてしみじみ語り合うこともしばしば。日頃の関わりの中から、連絡帳に職員らが書き溜め、出来る限りの配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、ご本人やご家族からも情報を聴取している。担当ケアマネからも情報をもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートや介護記録に記されたバイタルチェックや行動記録・申し送り事項などを参考に職員全体がご利用者一人一人の出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時とその後毎月に必要に応じてケアプランの見直しを行い、担当者会議を開催している。ご家族にも意見を伺い、プランの説明をし、同意をもらっている。	モニタリングは、入所時・1～2か月・6ヶ月毎・認定更新時期に全員で行い、気になる意見や提案とすり合わせてプランを作っている。家族の意見を書き溜めて担会へ落とし込み、重度化して行く方でも、少しでも継続する利用者主体の計画に工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に様子や状態変化などを記録し、申し送りを行っている。カンファレンスやモニタリングで情報共有しながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した場合、ご家族と連絡を取り合うようにしている。すぐに対応出来ないご家族に対しては病院受診などへ行く際にはスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて行けるパン屋さんに出かけ、パンを購入して帰ってくる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問診療が月2回あり、薬が処方されている。体調変化時には住診や来院して検査の指示を受ける。また、近隣の整形外科・皮膚科等の紹介状も書いて頂き、受診の際には職員が付き添っている。	かかりつけ医は、24時間対応で、何でも言い合える関係が築けている。本人や家族が入所以前からの希望する医療機関での受診も支援している。提携医が毎週1回・訪問歯科週1回・訪問看護主1回、かかりつけ医の指示の元、整形外科や皮膚科が住診に来ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、週1度訪問看護が来てバイタル測定や体調把握をされる。その時、情報提供・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時以外にも訪問し、看護師や相談員と情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に医療連携加算の説明を行い、重度化した場合における対応にも関わる指針を説明し同意書に記入して頂いている。	入居時に、看取りの説明を充分に行う。看取りを積極的にして、利用者のために看取ったら、今年度は8人にも至った。看取りが始まる時には医師が家族に電話し、特養や医療機関への便宜紹介も図ってくれている。食べれるだけ食べてもらい 飲めるだけ飲んでもらうように勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、ホーム会議・ユニット会議にて緊急時の対応について話し合いを行っている。介護経験の浅いスタッフが多いので消防署の救命講習を受ける機会を設けたいと検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。スプリンクラー・火災報知器を設置し、非常食も確保している。	消防署は年1回参加、昼夜想定で年2回訓練している。寝たきりの方に向けた訓練は、職員が利用者役になって、気持ちがわかる訓練を実践している。水害時避難訓練も職員同士でシーツやタオルを使用した救助方法や車椅子を2階に上げたり連絡網作成や備蓄も管理したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画に「プライバシー保護」や「接遇マナー」の研修を行っている。個人の性格や生活の背景を把握し、尊厳を傷つけないように言葉かけや態度には注意を払っている。	家族了承で「○○ちゃん」付けも時と場合によって使用している。接遇研修とプライバシー保護の学びから嫌がることはしない。訪問看護さんの講師で、個人の尊重とプライバシーに配慮したケアの方法を習い、利用者の表情やしぐさから本人の気持ちや悟る対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれのペースに合わせた意思決定の出来る場面(更衣・レクリエーション・手伝いなど)を作り、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた生活をして頂いている。食事や入浴時間、レクリエーションへの参加はご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容があり、好みに講じてカット・カラー・パーマなどが出来る。更衣については、ご自身で選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・後片付けなど、職員と一緒にしている。出前なども利用して食事を楽しんで頂けるように工夫している。また、季節感を感じられるようにそうめん流しや寿司作りなどの楽しみもある。	ちらしずしを混ぜたり、汁を注いだり、小鉢に盛り付けをしている。朝はパン食。サンドイッチやホットドッグで変化をつけ、庭の畑で取れた作物(さつま芋・スイカなど)が食卓に並び、収穫の喜びを味わっている。そうめん流しは夏の楽しみ、豊富なおやつも心がウキウキ倍増している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は高齢者向けの給食を利用している。ご本人に合った量や刻み・トロミなどはこちらで加減している。水分補給は記録して摂取量の少ない方は細目に声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また提携歯科の衛生より助言も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、毎日チェック表に記入している。尿意の分からない方には随時誘導を行っている。	～する前に声をかける事で、トイレで排泄する利用者が増えている。拒否をされても、～した後など、その人にあったタイミングで声をかけ、放置しない対応をしている。プライバシーに配慮して、移動する際のさりげない声かけやスムーズに誘導など工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・排泄回数のチェックやレクリエーションに運動を取り入れたり、散歩や食事にヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やご本人の希望を聞き、個別に入浴している。入浴剤などを利用して色と香りを楽しんで頂いている。	週2回が基本。毎日夕食後も対応できる体制が整っている。入浴を嫌がる方は、利用者と職員の相性を見て声をかけ、気分よく入浴して頂く工夫をしている。何かの用事を頼む時やさりげなく表情を見て無理なく入浴して頂いている。重度の方も二人介助でくつろげいで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状態に合わせて休憩時間や就寝、起床時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明用紙はいつでも閲覧できるようにファイルにしてある為、個々に勉強できる。変更があった場合はユニット会議時に説明している。誤訳を防ぐため名前・日付など、ご本人の目の前で読み上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴やホームでの暮らしの中で気づいたことを生かして、役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩以外に花見など行事を取り入れて外出する機会を作っている。ご家族にも同行して頂けるように案内状や電話連絡を行い、参加を促している。	何をすることも家族へ事前に連絡。家族と一緒に花見やバラ園、目の前の公園等に出かけたり、庭や近くの公園まで散歩に出かけ、日光浴で気分転換を図っている。お決まりの散歩コースを気軽に散歩し、最も身近な玄関先でシャボン玉が風でふわふわして眺めるなど、外気に触れる機会を与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を利用し、必要な物や欲しい物が買に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時はホームの電話を使用してもらっている。ご家族・知人から届いた手紙はご本人に手渡ししている。手紙やはがきを書かれる方には切手やポスト投函をご家族をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てに安全性が考慮され、快適に過ごして頂けるように配慮されている。壁には季節感を感じさせる飾り物やご入居者と一緒に作成した作品を展示している。	毎月、季節を感じて頂く飾りに変えていて、思い出を綴る場としている。自由に好きな場所で一日を過ごす空間が生まれ、お出かけや行事の時の笑顔の写真が飾られ、当時を思い出しながらの会話が弾んでいる。ほんの手慰みだという作品作りの思い出の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのリズムで生活して頂くために、広く自由な居室・食堂を用意している。ソファやテレビを設置し、思い思いに自由に過ごせるようにしている。相談室・多目的室も自由に使用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持ってきて頂き、居心地良く過ごせるようにしている。またご家族の写真など飾り、安心感を持って頂くようにしている。	入居時には、家族に「これがあると安心」という物を持ち込むように依頼している。友達が作ってくれた飾りが面会の時の話のネタになっている。「個性が生きる」そのもので、部屋で落ち着いて過ごすことができる。ベッドが低いのは、転倒リスクと介護者の負担軽減の職員の賜物である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を貼って、ご自身の部屋が分かるようにしている。廊下・トイレ内に手すりを付け、自力で動けるようにしたり、トイレ・浴室なども分かりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101503
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター 岡山下中野
所在地	岡山県岡山市北区下中野323-107
自己評価作成日	令和 2年 2月 10日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101503-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が入居者様が安心して生活できるようなホームを目指されています。要介護1～5までと入居者様の介護度はそれぞれ違いますが、皆さん住み慣れた自宅を離れ、ホームでの生活となり不安や心配を抱えておられます。ニチイケアセンター岡山下中野では、その人主体を重んじた総合的なケアをし、スタッフのチームケアを行うことにより、入居者様それぞれの状態に添った介護の実現を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

異業種から参入した介護職の方が数人いるので、様々な考え方や見る角度が違うことを上手に生かしている。例えば、避難に携わった人が、施設で避難しやすく使える様に意見をくれたり、介護職員が実践でできる程良いやり方に変えたりしている事や、調理に長けた職員が、新しい献立にチャレンジして、職員全員で楽しみながら参画しているところが素晴らしい。管理者が、職員の自由な考え方や意見を全て聴き、実践させてから全員で検討し、聞いてもらえるその姿勢がやる気に繋がるよう導き、職員が楽しく成果が上がるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是や理念は良く見えるところに提示し、申し送りや会議の時に唱和し、共有・実践に繋げている。	事務所とリビングに掲示し、ホーム会議・ユニット会議2回の3回、開催時に理念を全員で唱和し心に刻んでいる。新人研修は、入社直ぐに研修し、人間形成の礎は、1~2か月の間に行い、社是「誠意・誇り・情熱」をゆっくり丁寧に享受し、理念を細分化して月間目標として、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園へ天気の良い時には散歩に出る。銭太鼓・マジック・二胡の演奏・アコーディオンなどのボランティアを受け入れている。	町内会長が地主で大家を兼ねていて理解があり、目の前の公園では、花見ができ公園をのびのびと使わせてくれる。日常は、地域の人や小学生が買い物や散歩の時に、声をかけてくれたり、犬の散歩している方が犬を抱かせてくれたりする。	せつかくの近所とのご縁を、もっと深めてはいかがですか？グループホームの知名度を上げる施策や職員の介護や認知に対する講話を地域で行っては如何ですか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページで活動を随時お知らせしている。また、運営推進会議の案内時に地域へ行事やボランティアの発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見や要望を聞いている。また意見箱を設置している。	今まで来防がなかった包括に手紙・電話などで案内し包括の新人を連れて来てくれるようになった。現状・活動・事故報告での意見交換も講話が生まれ、看取り期のケアや家族の不安に対しても、泊まり込んで職員と一緒に提案し家族に安心して頂いている。	運営推進会議に地域の身近な方を招いて、新しい地域の情報を取り込み、実践しては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしたり、内容の報告・ほほえみ便りの発送など、情報提供をしている。	窓口は、管理者と事務員で、市の方とは、何でも気軽に相談や会話が出来る関係が築けている。感染症予防のチラシや広告を市から頂き家族まで配ることもしている。介護保険の更新時は、管理者が各福祉事務所へ出向き、連携を図れるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に組み入れて、身体拘束をしないケアを心掛けている。現在、該当者はいませんが身体拘束適正委員会を設け、3か月に1度話し合いをし、必要な状況が発生した場合は家族の同意を書面で行うようにする。	年間研修とは別に、毎月3人の利用者に向けた拘束のケースカンファレンスを行っている。ベッド柵で囲わないことや車いす上での安全安楽な姿勢の保持などを含めて、利用者の重度化が進んでいるので、移動時には、常に付き添い、優しい言葉がけや態度で接する実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、研修会を行い防止に努めている。更衣や入浴の際には、入居者様の変化をチェックし虐待を見過ごさないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時には個別説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、家族会や運営推進会議などで意見や要望を聞いたり、意見箱の設置も行っている。	家族が他の利用者の変化から本人との比較となるので、家族にも認知症の学習をして頂く機会を設けている。顔つきや首振り、表情やしぐさで察知し快不快かを感じ取っている。家族の来訪の頻度も多く、施設内でのお茶を出して、要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り・月に1回のホーム会議・月2度のユニット会議を開催し、情報や意見交換をしている。	職員が、想いを言い合える関係ができている。意見や提案、職場の悩みや苦勞を個別に聴き取り、全体会議で世間話の様にゆったりとした雰囲気の中でチャレンジ精神を育んでいる。全体・女子会・男子会も積極的に職員が企画し、関係を分かち合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月拠点内での研修をはじめ、会社内でミーティング・テクニカル研修などに参加したり、講座の割引制度も設けている。働きながら資格が取得できるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山に5拠点あるグループホームとの交流は、毎月管理者・ケアマネと分かれて行われ、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問時に情報収集を行うと同時に、ご本人の希望を伺い、安心して介護を受けられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にホーム見学をしてもらい、説明・納得して頂いている。事前訪問に際しても家族からの要望などを聞いている。入居申し込み書にも希望や要望の記入欄を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の生活状態やADLなどの情報収集を行い、カンファレンスを行いケアプランを作成している。2ヶ月程度を目安にプランを見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気と共に過ごすことを前提に、家事・炊事を一緒に行うようにしている。その過程で、昔の知恵を学ばせて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の状況をお伝えしている。状態の変化があった時は、その都度報告をし、提携医以外の病院・医院に関しては付き添ってもらっている。面会・外出・外泊などご本人との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のみならず、友人・知人の面会や手紙・葉書などを通して交流を図っている。	前ケアマネのお孫さんやひ孫やもとの家のご近所さんがしばしば来訪する。面会者は他の利用者とも仲良しになって、来訪毎に新しい馴染みの人となっている。パン屋・移動パン屋・近所の家の花壇・公園・庭の水やりや芋ほりが、新しい馴染みの場所となる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格・ご入居者同士の関係など把握し、席を配慮している。孤立しないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共同生活が馴染めず退去したご利用者には、他のサービス情報を提供した。また、入院中のご利用者のお見舞いへ行き、経過を伺い今後の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者との関わりの中で一人一人の希望・意向の把握に努めている。またセンター方式を使用し、カンファレンスなどの情報を共有し、ご本人の立場に立って検討している。	家事をしている時のさりげない会話から意向を汲み取っている。1対1になる入浴や排せつ・夜勤帯では、絶好の聴き取り場面で、膝を合わせてしみじみ語り合うこともしばしば。日頃の関わりの中から、連絡帳に職員らが書き溜め、出来る限りの配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、ご本人やご家族からも情報を聴取している。担当ケアマネからも情報をもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートや介護記録に記されたバイタルチェックや行動記録・申し送り事項などを参考に職員全体がご利用者一人一人の出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時とその方毎に必要なに応じてケアプランの見直しを行い、担当者会議を開催している。ご家族にも意見を伺い、プランの説明をし、同意をもらっている。	モニタリングは、入所時・1～2か月・6ヶ月毎・認定更新時期に全員で行い、気になる意見や提案とすり合わせてプランを作っている。家族の意見を書き溜めて担会へ落とし込み、重度化して行く方でも、少しでも継続する利用者主体の計画に工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に様子や状態変化などを記録し、申し送りを行っている。カンファレンスやモニタリングで情報共有しながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した場合、ご家族と連絡を取り合っている。すぐに対応出来ないご家族に対しては病院受診などへ行く際にはスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて行けるパン屋さんに出かけ、パンを購入して帰ってくる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問診療が月2回あり、薬が処方されている。体調変化時には往診や来院して検査の指示を受ける。また、近隣の整形外科・皮膚科等の紹介状も書いて頂き、受診の際には職員が付き添っている。	かかりつけ医は、24時間対応で、何でも言い合える関係が築けている。本人や家族が入所以前からの希望する医療機関での受診も支援している。提携医が毎週1回・訪問歯科週1回・訪問看護主1回、かかりつけ医の指示の元、整形外科や皮膚科が往診に来ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、週1度訪問看護が来てバイタル測定や体調把握をされる。その時、情報提供・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時以外にも訪問し、看護師や相談員と情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に医療連携加算の説明を行い、重度化した場合における対応にも関わる指針を説明し同意書に記入して頂いている。	入居時に、看取りの説明を充分に行う。看取りを積極的にして、利用者のために看取ったら、今年度は8人にも至った。看取りが始まる時には医師が家族に電話し、特養や医療機関への便宜紹介も図ってくれている。食べれるだけ食べてもらい、飲めるだけ飲んでもらうように勤めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、ホーム会議・ユニット会議にて緊急時の対応について話し合いを行っている。介護経験の浅いスタッフが多いので消防署の救命講習を受ける機会を設けたいと検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。スプリンクラー・火災報知器を設置し、非常食も確保している。	消防署は年1回参加、昼夜想定で年2回訓練している。寝たきりの方に向けた訓練は、職員が利用者役になって、気持ちがわかる訓練を実践している。水害時避難訓練も職員同士でシーツやタオルを使用した救助方法や車椅子を2階に上げたり連絡網作成や備蓄も管理したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画に「プライバシー保護」や「接遇マナー」の研修を行っている。個人の性格や生活の背景を把握し、尊厳を傷つけないように言葉かけや態度には注意を払っている。	家族了承で「○○ちゃん」付けも時と場合によって使用している。接遇研修とプライバシー保護の学びから嫌がることはしない。訪問看護さんの講師で、個人の尊重とプライバシーに配慮したケアの方法を習い、利用者の表情やしぐさから本人の気持ちを悟る対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれのペースに合わせた意思決定の出来る場面(更衣・レクリエーション・手伝いなど)を作り、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた生活をして頂いている。食事や入浴時間、レクリエーションへの参加はご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容があり、好みに講じてカット・カラー・パーマなどが出来る。更衣については、ご自身んで選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・後片付けなど、職員と一緒にしている。出前なども利用して食事を楽しんで頂けるように工夫している。また、季節感を感じられるようにそうめん流しや寿司作りなどの楽しみもある。	ちらしずしを混ぜたり、汁を注いだり、小鉢に盛り付けをしている。朝はパン食。サンドイッチやホットドッグで変化をつけ、庭の畑で取れた作物(さつま芋・スイカなど)が食卓に並び、収穫の喜びを味わっている。そうめん流しは夏の楽しみ、豊富なおやつも心がウキウキ倍増している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は高齢者向けの給食を利用している。ご本人に合った量や刻み・トロミなどはこちらで加減している。水分補給は記録して摂取量の少ない方は細目に声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また提携歯科の衛生より助言も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、毎日チェック表に記入している。尿意の分からない方には随時誘導を行っている。	～する前に声をかける事で、トイレで排泄する利用者が増えている。拒否をされても、～した後など、その人にあったタイミングで声をかけ、放置しない対応をしている。プライバシーに配慮して、移動する際のさりげない声かけやスムーズに誘導など工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・排泄回数のチェックやレクリエーションに運動を取り入れたり、散歩や食事にヨーグルトに提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やご本人の希望を聞き、個別に入浴している。入浴剤などを利用して色と香りを楽しんで頂いている。	週2回が基本。毎日夕方後でも対応できる体制が整っている。入浴を嫌がる方は、利用者と職員の相性を見て声をかけ、気分よく入浴して頂く工夫をしている。何かの用事を頼む時やさりげなく表情を見て無理なく入浴して頂いている。重度の方も二人介助でくつろげいで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状態に合わせて休憩時間や就寝、起床時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明用紙はいつでも閲覧できるようにファイルにしてある為、個々に勉強できる。変更があった場合はユニット会議時に説明している。誤訳を防ぐため名前・日付など、ご本人の目の前で読み上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴やホームでの暮らしの中で気づいたことを生かして、役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩以外に花見など行事を取り入れて外出する機会を作っている。ご家族にも同行して頂けるように案内状や電話連絡を行い、参加を促している。	何をすることも家族へ事前に連絡。家族と一緒に花見やバラ園、目の前の公園等に出かけたり、庭や近くの公園まで散歩に出かけ、日光浴で気分転換を図っている。お決まりの散歩コースを気軽に散歩し、最も身近な玄関先でシャボン玉が風でふわふわして眺めるなど、外気に触れる機会を与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を利用し、必要な物や欲しい物が買に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時はホームの電話を使用してもらっている。ご家族・知人から届いた手紙はご本人に手渡ししている。手紙やはがきを書かれる方には切手やポスト投函をご家族にお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てに安全性が考慮され、快適に過ごして頂けるように配慮されている。壁には季節感を感じさせる飾り物やご入居者と一緒に作成した作品を展示している。	毎月、季節を感じて頂く飾りに変えていて、思い出を綴る場としている。自由に好きな場所で一日を過ごす空間が生まれ、お出かけや行事の時の笑顔の写真が飾られ、当時を思い出しながらの会話が弾んでいる。ほんの手慰みだという作品作りの思い出の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのリズムで生活して頂くために、広く自由な居室・食堂を用意している。ソファやテレビを設置し、思い思いに自由に過ごせるようにしている。相談室・多目的室も自由に使用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持ってきて頂き、居心地良く過ごせるようにしている。またご家族の写真など飾り、安心感を持って頂くようにしている。	入居時には、家族に「これがあると安心」という物を持ち込むように依頼している。友達が作ってくれた飾りが面会の時の話のネタになっている。「個性が生きる」そのもので、部屋で落ち着いて過ごすことができる。ベッドが低いのは、転倒リスクと介護者の負担軽減の職員の賜物である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を貼って、ご自身の部屋が分かるようにしている。廊下・トイレ内に手すりを付け、自力で動けるようにしたり、トイレ・浴室なども分かりやすく表示している。		